

適正な着果管理のためのブドウ「オーロラブラック」の簡易な葉面積推定方法

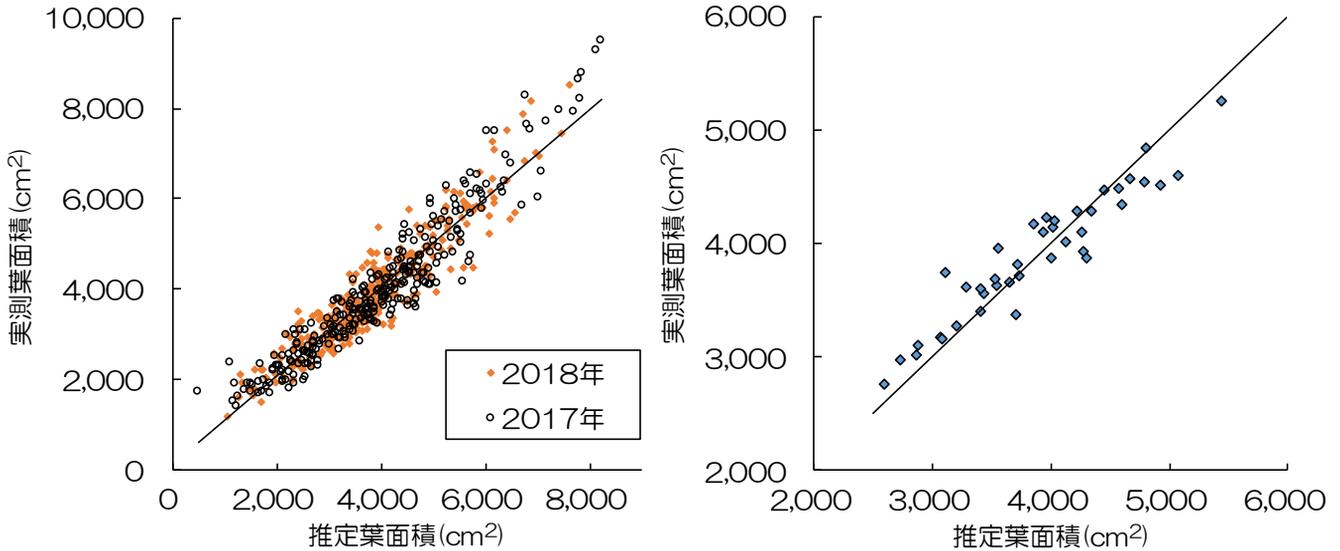


図1 回帰式を用いた「オーロラブラック」の1新梢当たりの葉面積の推定値と実測値との関係（左：新梢単位、右：樹単位、2017～2018年）

開発のねらい

着果量の目安としてLAI（葉面積指数）の利用が有効ですが、その把握には、調査する新梢すべての葉数と葉幅を測定しないといけないため、多くの労力が必要です。そこで、過去2年間の県内各地の調査データから、より簡易で精度の高い葉面積の推定方法を開発しました。

新技術の概要

- 「オーロラブラック」では、軟化後に1樹当たり15本の新梢について、1新梢当たりの葉数を数えるとともに、5節及び9節の本葉の葉幅を測定することで、1新梢当たりの葉面積を簡易に推定することが可能です（図1、図2）。
- 回帰式は $y=83x_1+157x_2+166x_3+135x_4-4373$ （ y ：1新梢当たりの葉面積（ cm^2 ）、 x_1 ：5節本葉の葉幅（ cm ）、 x_2 ：9節本葉の葉幅（ cm ）、 x_3 ：本葉の葉数、 x_4 ：副梢葉の葉数）です。

活用場面

この回帰式は、果粒軟化後でかつ適切な枝管理ができていない園地にのみ適用可能で、本葉の欠損が多い樹や副梢が放任され、葉数が多い樹では適用できません。